

第2期 多摩市国民健康保険データヘルス計画（概要版）

1. 計画の目的等

① 計画の背景

・平成25年6月14日に閣議決定された「日本再興戦略」において、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保が同様の取り組みを行うことを推進する。」とされ、これを受け、平成28年度に「多摩市国民健康保険データヘルス計画」を策定。

② 目的

・現行の計画の期間が平成29年度末で終了するため、国保データベース等保有データを活用し、第2期多摩市国民健康保険データヘルス計画を策定し、引き続き計画的に保健事業を実施し、もって被保険者の健康保持増進を図っていく。

2. 計画期間

6年を1期とし、第2期は平成30年度から平成35年度までとする。

3. 計画の位置づけ

健康増進法に基づく「基本的な方針」（※）を踏まえるとともに、「東京都医療費適正化計画」並びに「多摩市国民健康保険特定健康診査等実施計画」と十分な整合性を図る。

※健康増進法に基づく「基本的な方針」：平成25年度から平成34年度までの「二十世紀における第二次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次）」を推進するもので、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を基本的な方向としている。

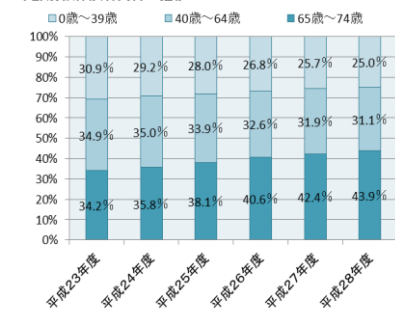
4. 多摩市国民健康保険の現状

① 被保険者と医療費の状況

・被保険者数は平成23年度をピークに減少傾向にある。これは、高齢化により被保険者が後期高齢者医療に移行していること、社会保険の適用拡大により他の保険に加入している人が増えているためと考えられる。

・年齢別被保険者割合の推移をみると、65歳～74歳の被保険者の割合が毎年増加している状況。また、東京26市と比較してみても、この割合は高い状況で、平成28年度は東京26市で一番高い状況。

年齢別被保険者割合の推移



	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
多摩市						
65歳～74歳	34.2%	35.8%	38.1%	40.6%	42.4%	43.9%
40歳～64歳	34.9%	35.0%	33.9%	32.6%	31.9%	31.1%
0歳～39歳	30.9%	29.2%	28.0%	26.8%	25.7%	25.0%
東京26市						
65歳～74歳	30.4%	31.5%	32.8%	34.6%	36.1%	37.7%
40歳～64歳	35.6%	35.8%	35.2%	34.5%	33.9%	32.4%
0歳～39歳	34.0%	32.7%	32.0%	30.9%	30.0%	29.9%

5. 医療費の状況

① 多摩市の医療費

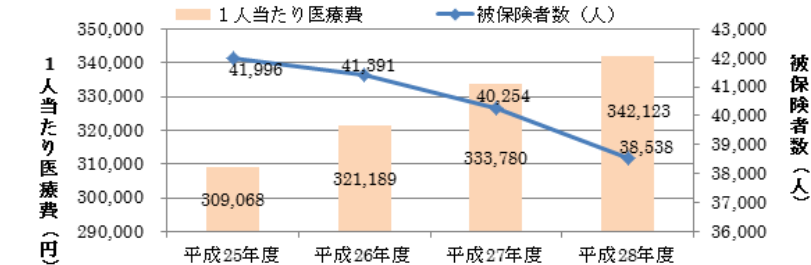
・多摩市の国民健康保険の医療費総額の推移をみると、被保険者が減少傾向にある一方、医療費は年々増えている。また、被保険者一人あたりの医療費も増加傾向にある。

・年齢別の医療費を見ると、年齢が上がるにつれ医療費が増加する傾向にある。また、一人あたりの医療費も年齢が上がると増加する傾向にある。

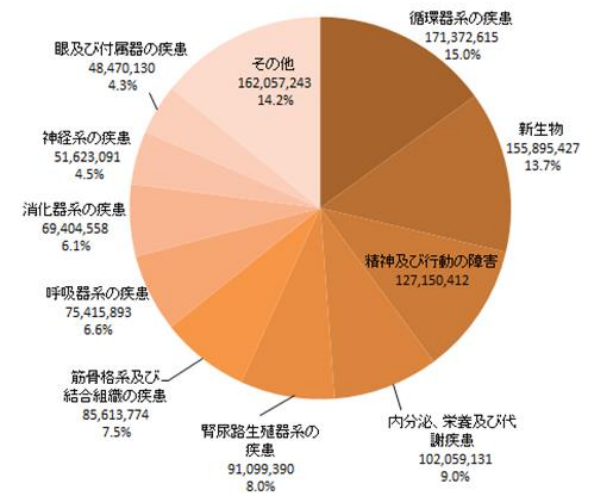
・大分類による疾病別医療費を見ると、高血圧性疾患や虚血性心疾患を含む循環器系の疾患、次に新生物（がん）の医療費が高額となっている。中分類で見ると、腎不全、糖尿病、高血圧性疾患等、生活習慣病が高額になっている。

・生活習慣病に関連する医療費として、男性では、透析のある慢性腎不全が入院医療費・外来医療費それぞれの中で大きな割合を占めている。慢性腎不全の原因となる疾患の中で、糖尿病、高血圧の医療費については男女ともに全国並みであり、大きく増加してはいないが、外来・入院ともに男性の透析医療費が増加している状況をふまえると、必要な人が早期に糖尿病・高血圧等の生活習慣病の治療を受けられていない可能性がある。

1人当たり医療費と被保険者数の推移



平成28年度疾病別医療費(点)



6. 特定健診検査データの状況

・健診所見では、女性のLDLコレステロールが全国と比べ高い傾向にあります。また、BMIや腹囲、各検査項目のリスク因子該当者は経年的に全国より少ない状況。

・血圧については、健診所見では全国より異常値該当者が少ない状況だが、高血圧が大きなリスク因子となる慢性腎不全（男性）、脳出血（女性）の医療費が経年的に全国より高い状況にあることを踏まえると、健診未受診者の中に治療が不十分な人がいる可能性もある。

## 7. 特定健診・特定保健指導の実施状況

- ・平成20年度の制度開始以降、着実に受診率が伸びてきたが、この数年は微増傾向にとどまっており、計画最終年度の29年度の目標値である60%を達成するのは非常に困難な状況。
- ・保健指導の実施率は非常に低く、なおかつ、実施率が低下してきている状況。実施日時等について、平日以外の日も行うなどの工夫をしているものの、実施率に結びついていない。

## 8. 第2期計画における健康課題と今後の方向性

### ① 医療費について

#### 【課題】

- ・疾病大分類及び中分類において、生活習慣病は医療費が高額で患者数が多く一人当たり医療費も高額となっている。
- ・生活習慣病の中でも、糖尿病及び糖尿病性腎症に係る医療費が非常に高額となっている。
- ・新生物（がん）は、大分類による疾病別医療費を見ると、高血圧性疾患や虚血性心疾患を含む循環器系の疾患について医療費が高額となっている。

#### 【今後の方向性】

- ・特定健康診査により生活習慣のリスクを早期に発見し、必要なものには特定保健指導や受診勧奨等を行うことで重症化することを防ぐ。
- ・引き続き糖尿病重症化予防事業を実施し、人工透析に至る人数を減少させ医療費の適正化を図っていく。
- ・がん検診により、がんを早期に発見し、適切な治療に結びつけることができるよう、市民が受診しやすいがん検診の体制整備を行い、受診率の向上に努める。

### ② 特定健診・特定保健指導について

#### 【課題】

- ・特定健康診査の受診率は年々上昇してきていたが、まだ半数以上が未受診の状況であり、潜在するリスクを把握できていない状況。

#### 【今後の方向性】

- ・特定健康診査は、生活習慣病の予防、早期発見、早期治療の根幹をなす事業であるため、受診率向上を図り、潜在するリスクを早期に発見し、早期の支援につなげる。
- ・健診の結果、リスクの高い被保険者に確実に特定保健指導を実施していくため、利用勧奨方法等を検討し実施する。

## 9. その他の保健事業等について

#### 【課題】

- ・厚生労働省が設定しているジェネリック医薬品普及率数量シェア目標に多摩市の普及率が65.86%となっている。
- ・多摩市高齢者実態調査報告書によると、介護・介助が必要になった主な原因でいちばん多い理由が「高齢による衰弱」である。

#### 【今後の方向性】

- ・ジェネリック医薬品差額通知について継続して実施。
- ・介護予防を推進するため、高齢者の虚弱（フレイル）に至る前のプレフレイルの段階で対象者を発見し、介護予防事業につなげる。

## 10. 第2期計画中に実施する保健事業

- ① 特定健康診査受診勧奨事業（継続）
- ② 特定保健指導（継続）
- ③ 糖尿病重症化予防事業（継続）
- ④ 健診異常値放置者受診勧奨事業（継続）
- ⑤ がん検診等（継続）
- ⑥ ジェネリック医薬品差額通知事業（継続）
- ⑦ フレイル（※）予防の普及・啓発（新規）
- ⑧ 多受診（重複受診、頻回受診、重複服薬）対策の検討

#### 糖尿病重症化予防事業について

特定健康診査の検査結果より糖尿病性腎症の重症化のリスクの高いものを抽出し、参加を希望された患者を対象に専門職が生活習慣改善の支援を行う。

支援にあたっては、患者のかかりつけ医やかかりつけ調剤薬局等と連携し、患者の身近な医療機関で支援を行える体制を新たに構築し、地域包括的に医療資源を充実させ、糖尿病以外の患者も支援できる体制を構築することを目指す。

## 11. その他

### ① データヘルス計画と健幸まちづくり

健幸まちづくりに向けては、次の取り組みにより健康づくりを行っていく。

- ・健康づくりの無関心層を含む市民全体を対象として、高齢になってからも出来る限り長い期間介護や支援を受けずに日常生活が送れるような生活習慣に対する取り組み
- ・健康寿命を延ばすための健康づくり・介護予防
- ・薬剤師、医師や関係職種が患者に関する情報共有する仕組みを浸透させ、地域包括的に医療資源を充実させ、糖尿病以外の患者も地域で支援できる体制づくり

### ② 評価及び見直し

- ・計画の進捗・達成状況を毎年度評価したうえで、本計画の目標達成に向けた取組みを推進する。
- ・評価結果については、多摩市国民健康保険運営協議会に適宜報告するとともに、公式ホームページ等で公表し、市民との情報共有を図る。
- ・評価は、健康福祉部保険年金課の職員が、評価指標等を活用し成果を評価し、次年度以降の取組の方向性について検討し、結果については多摩市国民健康保険運営協議会に報告する。
- ・また、必要に応じて、本計画の内容を見直していく。